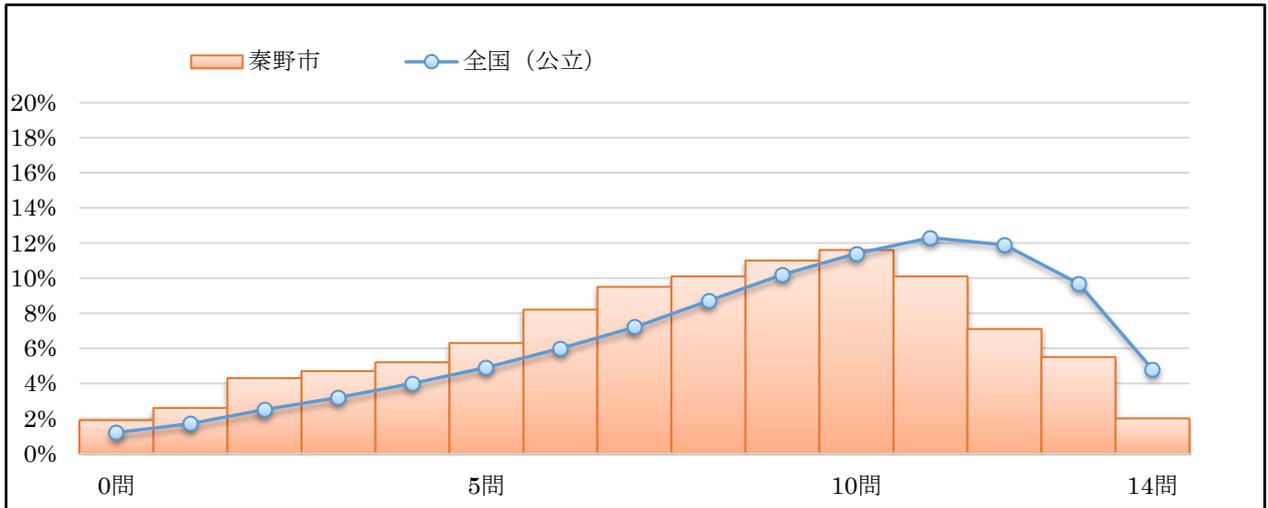


# 教科及び質問紙に関する調査の結果分析（小学校）

秦野市 全国学力・学習状況調査結果分析・活用検討委員会

## 1 国語科

### (1) 全体について



- ・平均正答数は市が 7.8 問で、全国は 8.9 問となっています。
- ・全国と比べると、11 問以上正答した児童の割合が低くなっています。
- ・問題形式別で見ると、記述式についての無解答率が他の形式に比べると高くなっています。

### (2) 内容について

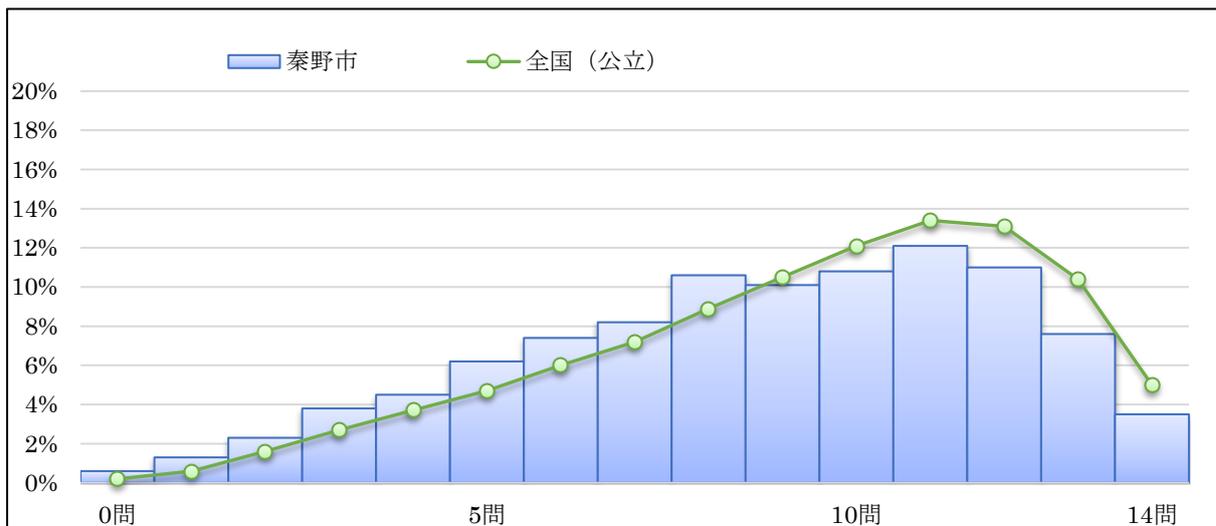
- 2**二「選んだ本の【目次の一部】から読むページとして適切なものを選択すること」の正答率は8割を超えており、目的に応じて必要な情報を得るために、適切な項目に着目し効果的に読むことについては、相当数の児童が理解できています。
- 3**一「自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択すること」の正答率は8割超となっており、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問の仕方については、概ね理解できています。
- 1**四「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」に課題が見られました。同音異義語に注意して漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られます。
- 1**三「目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」の正答率は2割となっており、目的や意図に応じて自分の考えを明確にしてまとめて書き表したり、文と文との意味のつながりを考えながら接続詞を使って内容を分けて書いたりすることに課題が見られます。

### (3) 学習指導にあたって

- ・語彙を増やし、文の中で正しく活用する力を育むには、覚えた漢字を活用する場面を設定することが有効です。例えば覚えた漢字を使って文章を書いたり、同じ漢字を使う熟語を集めたりする活動を設定すること等が考えられます。また、学習した漢字を意識して日常的に使ったり、自分が書いた文章を推こうする習慣をつけたりする指導も大切となります。
- ・文章を書く力を育むには、児童にとって必要感のある活動で伝えたいことを書く機会を増やしていくことが大切です。その際には、事実と感想、意見を区別して書いたり、自分の考えの根拠を明確にしたりできるよう指導することが必要となります。
- ・言語能力を高めるには、本や新聞を読むことを通して多くの言葉に触れることが大切となり、そのことが新たな言語の獲得につながります。そのためには、児童が本や新聞に触れやすい環境の整備や、きっかけ作り等に取り組むことが大切です。また、自主的に行う家庭学習等の中で、自分の興味にあわせて本を読んだり、自分の言葉で書いたりする場面を日頃から増やしていくことが大切です。

## 2 算数科

### (1) 全体について



- ・平均正答数は市が8.6問で、全国は9.3問となっています。
- ・全国と比べると、0～8問正答した児童の割合が高くなっており、9問以上正答した児童の割合が低くなっています。
- ・領域別で見ると、「数と計算」「量と測定」について課題が見られます。

### (2) 内容について

- 1(1) 「基本的な平面図形」について、特に台形については、概ね理解できています。
- 2(2) 「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること」については、相当数の児童が理解できています。
- 2(4) 「加法と乗法の混合した**整数と小数を計算すること**」に課題が見られます。
- 4(3) 「場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを**記述し、その結果から判断すること**」に課題が見られます。

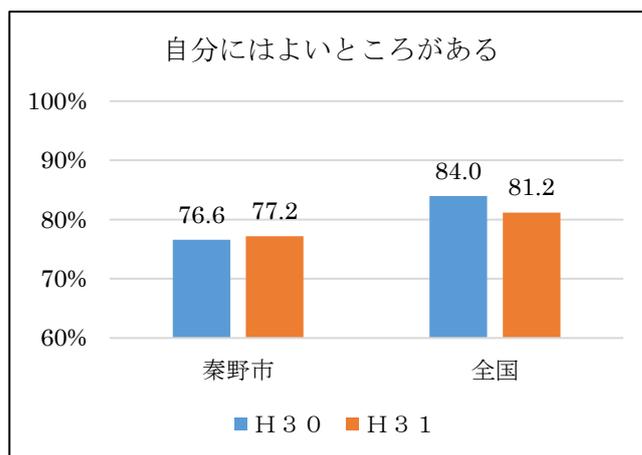
### (3) 学習指導にあたって

- ・図形の学習において応用問題を解くためには、まず予備知識として図形の概念理解をしておく必要があります。数学的活動の中で**日常生活の事象**と図形の学習が**関連付け**られるようにすることや**具体物を使った活動**が効果的です。
- ・授業では、**学ぶ過程**が見える**ノートづくり**が有効であり、後で見返したときに、どうして間違えてしまったのかなど、**自分の考えを残して書く**という**学習習慣**をつけることが大切です。
- ・今回の調査では、**情報を取捨選択する力**や**文章読解力**が求められており、日頃から一人ひとりに考えを持たせ、答えを出すことのみにとらわれない取組が必要となり、そのため単元のゴール（学習後に身につけさせたい力）を意識して導入段階の発問や課題を提示することが求められます。また、児童一人ひとりのニーズに合わせて、発展的な問題を用意することも大切です。
- ・グラフや資料から必要な情報を読み取るためには、授業の中で、丁寧に**資料を読み、説明する場の設定**を充実させていくことが大切です。
- ・主体的に学ぶ姿勢を身につけるためには、**自学自習の時間に向かうきっかけづくり**が大切です。授業において問いを見出したり、家庭学習で自分の興味・関心に合わせた課題に取り組んだりすることが効果的です。家庭との連携が重要となります。

### 3 児童質問紙

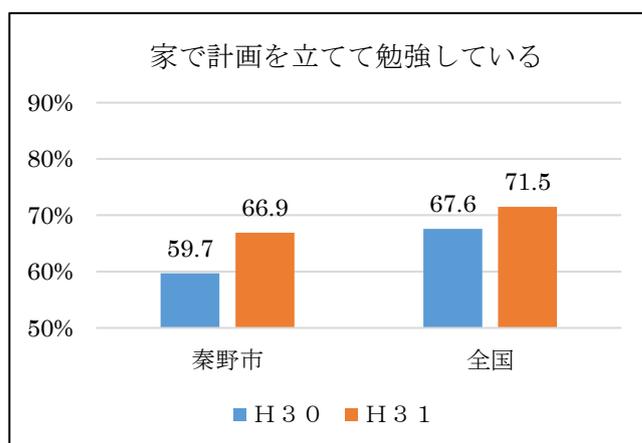
#### 【自分自身に関すること】

生きる力の基盤となる自己肯定感の指標として、「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、年々増加しています。また「先生はよいところを認めてくれる」「先生は分かるまで教えてくれる」と答えた児童の割合も増加していることから、学校での教師の関わりが大きな影響を与えているとみています。引き続き、一人ひとりの良さを具体的に伝え、生きる力の基盤となる自己肯定感を育てていくことが大切です。



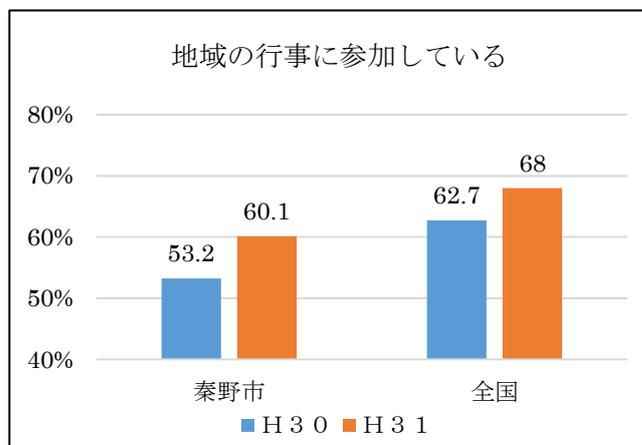
#### 【生活習慣に関すること】

「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は増加していますが、全国平均には及んでいません。「学校以外で1時間以上勉強している」と回答した児童の割合も全国平均を下回っていることから、学校は、家庭と協力しながら、継続的な家庭学習や読書活動の充実の重要性を踏まえ、児童が自主的に基礎学力を定着させたり知識の幅を広げたりできるよう支援していくことが求められます。



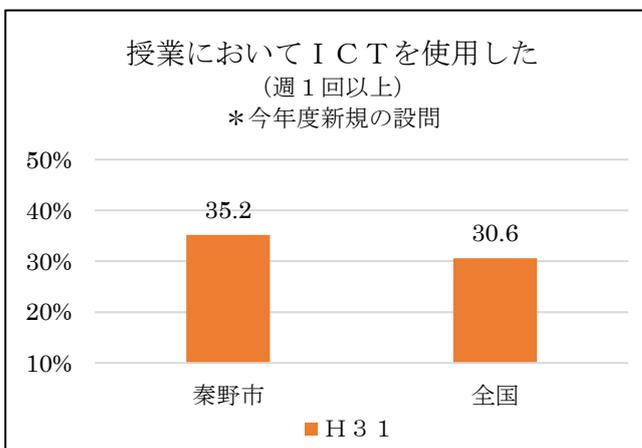
#### 【地域とのつながりに関すること】

「地域の行事に参加している」と回答した児童の割合は昨年度に比べ大幅に増加しているものの、全国平均には及んでいません。地域とともにある学校づくりの推進の観点からも、引き続き学校は、地域、家庭と連携し、児童の地域行事への参加を促し、地域や社会の課題を自分事として捉え、積極的に地域と関わろうとする児童の育成に努める必要があります。



#### 【主体的な学びに関すること】

「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを活用した」と回答した児童の割合は全国に比べ高くなっており、タブレット端末活用の効果が現れています。ICTの活用は、学びを深めるために有効なツールとなり得ることから、引き続き主体的な学びの実現に向け、学習内容に沿ったメリットを教師や児童が十分に理解した上で、一層効果的に活用を進めていくことが必要です。



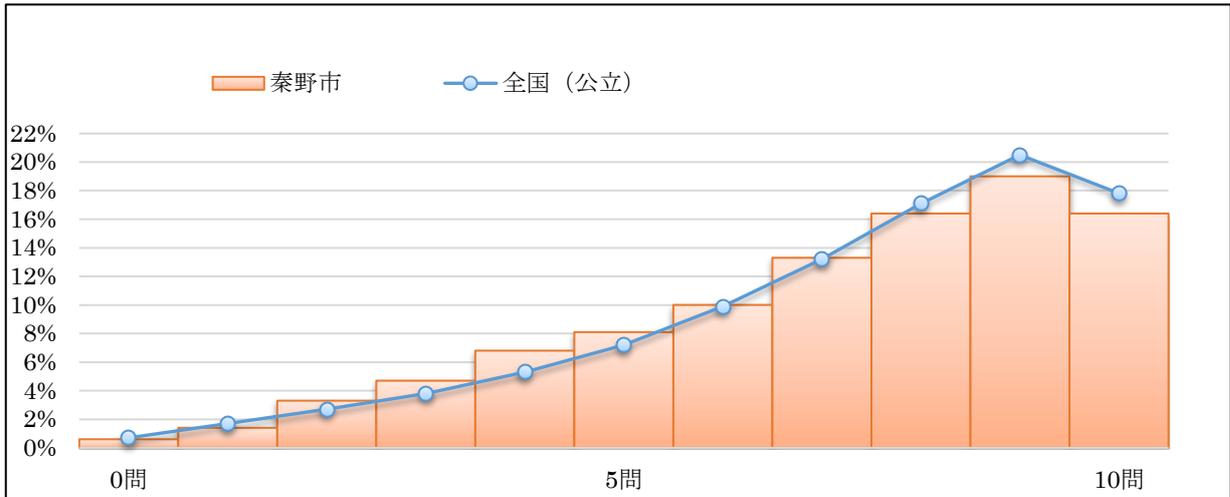
	29年度 【%】	30年度 【%】	31年度 【%】	全国 【%】
朝食を毎日食べている	93.6	93.2	93.9	95.3
毎日同じ位の時刻に寝ている	79.3	74.5	80.3	81.4
毎日同じ位の時刻に起きている	89.8	88.3	89.9	91.6
家で学校での出来事を話す	76.2	75.7	70.5	77.4
自分にはよいところがある	74.9	76.6	77.2	81.2
先生はよいところを認めてくれる	83.1	75.4	82.9	86.1
先生は分かるまで教えてくれる	79.4		90.0	91.7
夢や目標を持っている	83.0	78.3	80.0	83.8
やり遂げてうれしかったことがある	93.8		95.2	95.2
失敗を恐れず挑戦している	70.0		76.5	79.0
学級みんなで協力して取り組みうれしかったことがある			80.0	84.1
学校は楽しい	84.7		85.5	85.8
学校のきまりを守っている	93.0	89.4	93.9	92.3
人が困っていたら助ける	84.1		85.6	87.9
いじめはどんなことがあってもいけない	94.5	94.3	96.3	97.1
人の役に立つ人間になりたい	90.5	92.3	94.3	95.2
計画を立てて勉強している	56.4	59.7	66.9	71.5
学校以外で1時間以上勉強している	56.2	53.6	56.6	66.1
読書をする	77.4	76.8	78.8	81.3
学校図書室や地域の図書館に行く（月1回以上）	25.5		26.7	40.5
読書が好きである	67.3		71.3	75.0
新聞を読んでいる	30.8	30.0	29.7	38.5
地域行事に参加している	54.0	53.2	60.1	68.0
地域や社会をよくするために何をすべきか考える		39.6	46.0	54.5
外国のことをもっと知ってみたい			65.7	68.6
日本や地域のことを外国の人にもっと知ってもらいたい			72.1	76.1
授業でICTを使用した			35.2	30.6
授業でもっとICTを活用したい			84.7	86.5
話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている	61.6	67.8	66.8	74.1
授業で学んだことをほかの学習に生かしている			84.7	86.5
課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んだ	72.9	68.5	71.0	77.7
自分の考えを工夫して発表した	59.8	51.5	56.7	62.5

# 教科及び質問紙に関する調査の結果分析（中学校）

秦野市 全国学力・学習状況調査結果分析・活用検討委員会

## 1 国語科

### (1) 全体について



- ・平均正答数は市が 7.1 問で、全国は 7.3 問となっています。
- ・全国と比べると、9～10 問正答した生徒の割合が低くなっています。
- ・無解答率については、改善が見られます。

### (2) 内容について

- 「物語文や説明文を読んで、間に答える」という形式が姿を消し、「新聞」「話し合い」「意見文」と、より実生活の場面で活用する力を意識した出題となっています。
- ③二「資料(グラフ)から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」、特に記述式の問題形式には、これまでの調査で課題が見られてきましたが、相当数の生徒が、条件を理解して正しく取り組むことができていました。
- ①四「封筒の書き方を理解して、相手先を楷書で正しく書くこと」については、平成24年度調査「はがきの書き方を理解して書く」と同様に、依然として課題が見られます。
- ②三「話し合いの話題を正しく受け取って、条件にしたがって自分の考えを書く」の設問では、**無解答率**が今回の出題の中では一番高くなっています。また、2つの条件と「実際に話すように」を合わせた**3つの条件**のうち、2つ以上を満たさない解答も2割以上あり、課題が見られます。

### (3) 学習指導にあたって

- ・「書くこと」については、くり返し学習する機会をつくるのが大切です。特に、一度書いた文章を「**書き直す、校正する**」活動は、「相手に分かりやすく伝わる表現を工夫すること」などの「話す力」にもつながる重要な活動として、意図的に授業の中で取り組む必要があります。また、「書く力」を高めるために、**字数や書き出しなどの条件を制限した課題**に取り組むことも有効です。
- ・資料から必要な情報を正しく読み取り、読み取った内容を自分の言葉で**構成し直す力**が求められています。説明文の学習の際、グループワークなどを通して生徒主導での読み取りを積極的に設定する必要があります。また、レポートなどを書く際には、**文章にグラフや表などの資料をつける**ようにすることで、生徒の視点が広がります。
- ・「封筒」や「はがき」の書き方に留まらず、目的や必要に応じた文字の書き方、**伝える相手を意識した**書き方等、実生活と結びつけた課題を設定することも有効です。

## 2 数学科

### (1) 全体について



- ・平均正答数は市が9.1問で、全国は9.6問となっています。
- ・全国と比べると、0～5問正答した生徒の割合が高くなっています。
- ・問題形式別で見ると、記述式の問題についてやや課題が見られ、無解答率も高いです。

### (2) 内容について

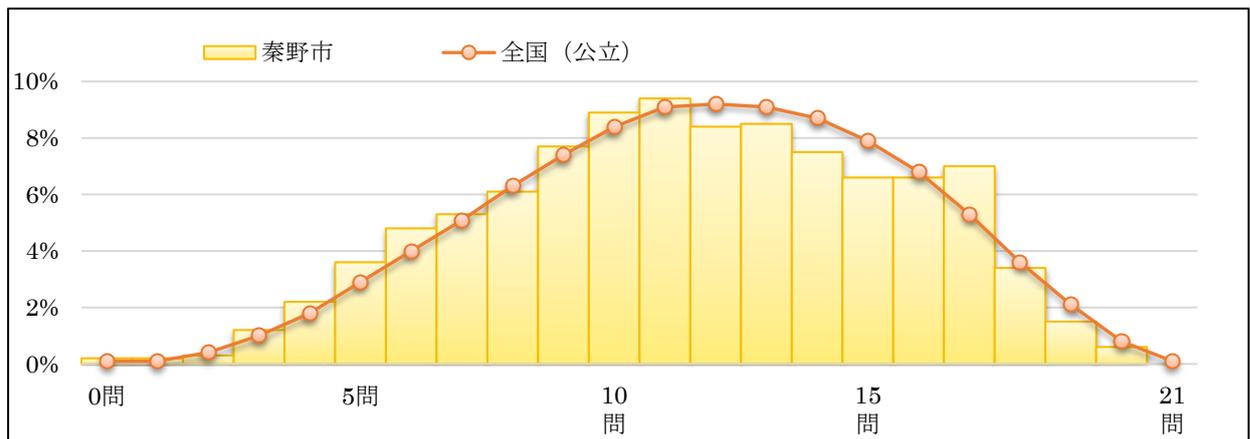
- 3 「図形の移動の特徴を的確に捉え、平行移動の意味を理解すること」については相当数の生徒が理解できています。
- 5 「簡単な場合について、確率を求めること」は概ね理解できています。
- 8 (1) 「資料を整理した表から最頻値を読み取ること」に課題が見られます。
- 8 (2) 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題が見られます。また、無解答率も高いです。

### (3) 学習指導にあたって

- ・事象が成り立つ理由を説明できるようになるためには、他教科も含めた言語活動の充実が必要となり、生徒自身が興味をもつような教材の提示や授業展開の工夫が効果的です。
- ・答えを求めるだけでなく、求め方を説明することも必要となってくることから、授業では、学ぶ過程が見えるノートづくりを大切にしていくことが有効です。
- ・表・図・グラフ・式を関連付けて説明したり、自分の考えを書いたりする機会を増やし、間違いを残して分かるところまで書くという学習習慣をつけることが大切です。また、正確にかつ速く解くために、時間設定などの目標をもって課題に取り組むことも求められます。
- ・最頻値、中央値、平均値の意味については、具体的な例を用いて、その違いを確認することで、生徒が実感をもって理解することが大切です。
- ・家庭学習では、一人でじっくりと計算などの課題に取り組むような時間を確保することが大切です。そのため、家庭と連携する中で、本人が目的意識を持った取組となる支援が重要となります。
- ・調査問題は、今求められる数学的な資質・能力の指標となります。調査問題を授業の導入で活用したり、学習後の適用問題として扱ったりすることも重要です。

### 3 英語科

#### (1) 全体について



- ・平均正答数は市が 11.5 問で、全国は 11.8 問となっています。
- ・全国と比べると、12～16 問正答した生徒の割合は低くなっています。
- ・領域別で見ると、「聞くこと」は全国と同程度できています。

#### (2) 内容について

- **1**・**2**・**3** リスニングの選択問題については良くできています。
- **9**(1) 「文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する問題」や「生活体験に基づいた英文を読んで最も適切なものを選択する問題」では、相当数の生徒ができています。
- **9**(3) 「与えられた情報に基づいて、これまでに学習した基本的な表現を使って人物を紹介する英文等を書く問題」では、基本的な文法を使って英文を正しく書くことに課題が見られます。
- **4**・**8**・**10** 「英文を聞いたり、読んだりして自分の意見を書く問題」では、**無回答率が高く**、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項の誤りが多くなっています。

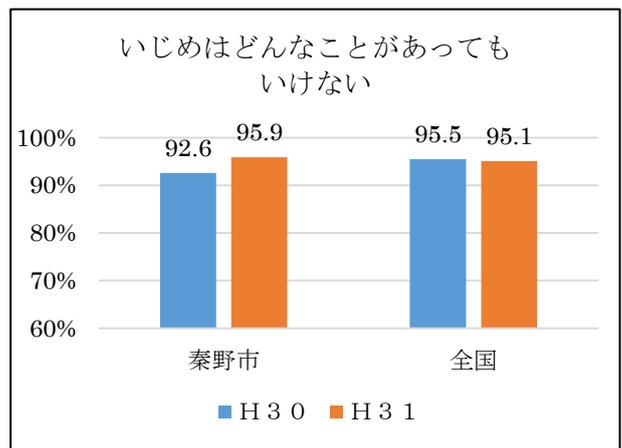
#### (3) 学習指導にあたって

- ・リスニングの選択問題は、正答率が高くなっています。これは、授業内で英語を使って指導し、**児童生徒が英語を聞く場面**を多く作っていることが考えられることから、こうした取組を継続していく必要があります。
- ・英文を正しく理解するためには、教科書の英文を精読するだけでなく、**教科書以外の英文にも慣れ親しみ**、概要や要点を捉える読解練習が必要です。e-ライブラリー内にある長文等を活用する方法も考えられます。
- ・自分の言葉として英語の表現力をつけるためには、英単語や基本文を**繰り返し指導**し、基礎基本を定着させることが大切です。さらに英単語であれば、日本語の意味をすぐ伝えるのではなく、**関連した言葉を連想する** 3 ヒントクイズや英英辞典を使用して、**意味を考えたり、単語を説明する英文を考えたり** することで語彙の増加と定着を図ることができます。また基本文であれば、パターンプラクティスだけではなく、**即興で自分の考えや気持ちを伝え合ったり、書いたりする活動**を取り入れていく中で、生きた英語として基礎基本を定着させることが重要です。

## 4 生徒質問紙

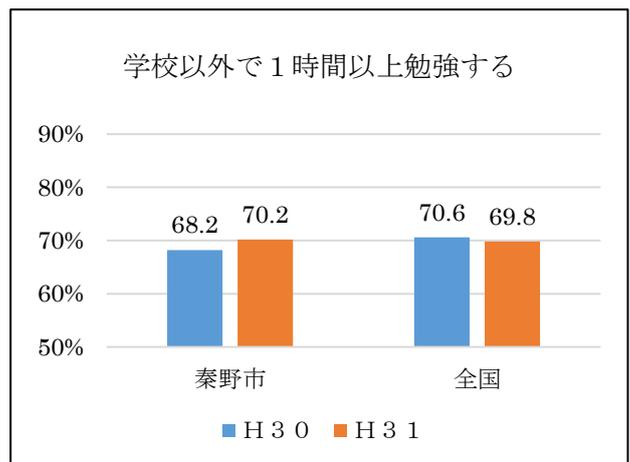
### 【自分自身に関すること】

「いじめはどんなことがあってもいけない」、さらに「学校のきまりを守っている」と回答した生徒の割合は全国と同様で、高い水準を保っていることから、生徒の感情に寄り添った日頃の支援や、生徒会を中心とする「いじめを考える児童生徒委員会」等の取組の浸透が進み、仲間意識や規範意識の定着が図られていると言えます。引き続き、学校の教育活動全体を通じ、いじめを生まない学校風土づくりを進めていくことが大切です。



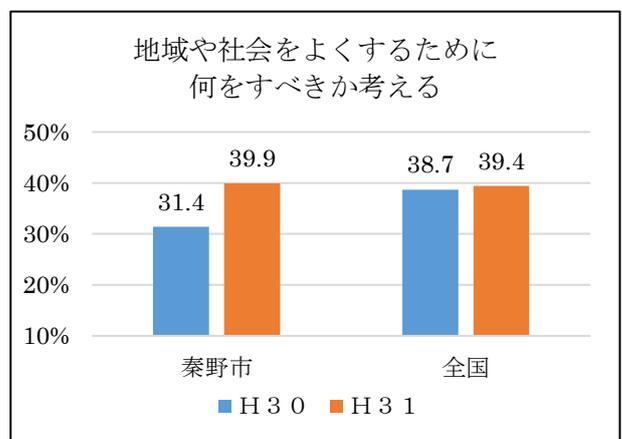
### 【生活習慣に関すること】

朝食の摂取率や起床・就寝時間など、基本的な生活習慣に関わる項目は改善しているものの、全国平均には及ばず、引き続き家庭と連携した取組を進めることが重要です。一方、普段の勉強時間は改善が見られ、全国平均を上回る結果となっています。今回の調査で対象となった生徒の6年生時の質問紙との比較からは、3年間の育ちの中で学習習慣の形成が進んだこともうかがわれます。本や新聞に親しむこと等を通じて、より一層興味の幅を広げ、今後の豊かな生き方につながる素養を育むことが求められます。



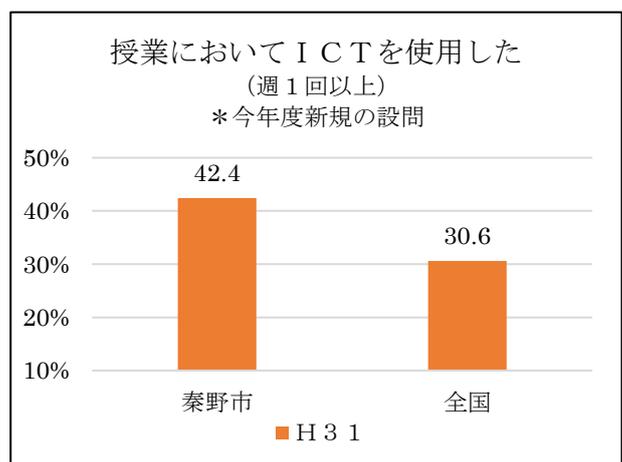
### 【地域とのつながりに関すること】

「地域行事に参加している」、さらに「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」と答えた生徒の割合が、昨年度から大幅に増加しています。家庭での働きかけや普段の授業、コミュニティ・スクールの取組等を通して、地域を身近に感じ、地域の一員としての自覚が高まってきているので、引き続き、ボランティア活動や地域行事への参加を推進していくことが重要です。



### 【主体的な学びに関すること】

「授業でコンピュータなどのICTを活用した」と回答した割合、さらに「自分の考えを工夫して発表した」と回答した割合が全国平均を上回っていることから、日常の授業において、表現のツールとしてICTの効果的な利用が進んできていることがうかがわれます。引き続き、情報モラル、情報リテラシーの育成も踏まえながら、主体的、対話的で深い学びの実現に向け、話し合い活動での活用など、一層利用の幅を広げていくことが大切です。



	29年度 【%】	30年度 【%】	31年度 【%】	全国 【%】
朝食を毎日食べている	88.5	87.1	89.3	93.1
毎日同じ位の時刻に寝ている	67.4	68.6	73.9	78.0
毎日同じ位の時刻に起きている	89.0	86.6	90.9	92.8
家で、学校での出来事を話す	70.2	69.5	75.3	76.4
自分にはよいところがある	68.4	75.0	73.6	74.1
先生はよいところを認めてくれる	72.6	75.9	79.7	81.5
先生は分かるまで教えてくれる	69.9		83.4	84.6
夢や目標を持っている	69.5	71.3	70.1	70.5
やり遂げてうれしかったことがある	93.8		94.3	93.9
失敗を恐れず挑戦している	64.3		67.2	70.3
学級みんなで協力して取り組みうれしかったことがある			75.6	82.8
学校は楽しい	76.0		81.6	81.9
学校のきまりを守っている	92.7	93.0	95.3	96.2
人が困っていたら助ける	81.6		84.7	85.9
いじめはどんなことがあってもいけない	91.3	92.6	95.9	95.1
人の役に立つ人間になりたい	90.3	91.8	93.3	94.3
計画を立てて勉強している	49.8	43.6	50.0	50.4
学校以外で1時間以上勉強している	70.0	68.2	70.2	69.8
読書をする	50.7	53.3	54.2	65.2
学校の図書室や地域の図書館に行く（月1回以上）	14.0		12.3	20.4
読書が好きである	58.0		62.0	68.0
新聞を読んでいる	23.2	21.8	27.4	28.5
地域行事に参加している	36.8	39.3	49.4	50.6
地域や社会をよくするために何をすべきか考える		31.4	39.9	39.4
外国のことをもっと知ってみたい			62.2	62.4
日本や地域のことを外国の人にもっと知ってもらいたい			58.6	59.3
部活動に参加している	79.6		81.8	87.5
平日1日当たり2時間以上部活動をする			64.9	53.0
授業でICTを使用した			42.4	30.6
授業でもっとICTを活用したい			78.3	78.3
話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている	60.4	70.1	67.7	72.8
授業で学んだことをほかの学習に生かしている			71.9	74.9
課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んだ	69.6	67.2	71.4	74.8
自分の考えを工夫して発表した	57.6	52.8	59.6	55.8